



日刊 日七十月二
日刊 日七十月二
日刊 日七十月二

平町の新豫算

經常部は増額 臨時部は減額

平町では既報の如く今十七日午後一時町會議事堂に於て昭和十二年豫算の内示會を開き青沼町長から大要の説明ありつたが新豫算總額は四十六萬六千八百八十五圓で經常部三十三萬一千二百六圓 臨時部十五萬五千五百七十九圓

市制認可申請書の作製に着手する

平町書記數名平窪へ出張

平町の市制施行に合併する平窪村との交渉は昨報の如く協定書の交換で殆んど確定的となつた爲め平窪町長に認可申請する各種の統計資料その他諸件につき今十七日平町から松本書記外三名の吏員を平窪村に派し同調査に着手した

兩主任の出福

平窪の齋藤司法、三村待高兩主任は...

鹿島村で節婦表彰

石城郡鹿島村の上矢田字太郎作長瀬あき(六)並びに同村大字船立字八合草野やす(六)兩婦は節婦の勲章として去る十一月紀元の佳節に於て同村から表彰状に木杯を添えて表彰されたが兩婦共に共に死別後...

農林省が計画する九面と小濱の修港

吉武囑託技師の調査で實現の可能性は充分

石城郡勿來町の九面港と植田町の小濱港は地元は勿論過ぐる縣會に於ても改修の希望があり縣當局でもまた漁業振興の爲め右の施行を目論見られてゐるところであるが該計畫に關して農林省では吉武囑託技師を派し去る十三日から三日間に亘り小濱平土木監督所長同行九面は横山勿來町助役、小松縣議、小濱は古川植田町長並びに同地漁業組合長等の出迎ひと案内で施工上のつき事務的及び財政並に漁業の狀態を調査されたが吉武技師の語るところは左記の如くであつた

常識講座

ラキジャリイは豪奢又は贅澤の意だラクジュリイも同一意、ラクジュリイは豪華なる意、ラキジャリイは贅澤なる意、ラキジャリイは豪華なる意、ラキジャリイは贅澤なる意...

小學校の學藝會

小名濱町小學校では昨十六日午前十時から學藝會を開き後父兄の懇親會を催した又石城郡警備高等學校では今十七日午前九時から同じく學藝會並に父兄懇親會を開催した

運轉手の試験

本縣自動車運轉並に就業免許試験は來る三月二日から五日まで福島市外渡利村の農園に於て學科試験を行ひ引續いて六日は午前九時から福島市公會堂で運轉手實地及び就業の同試験を行ふと

林野保護の組合總會

八十五名を表彰 平窪管下の林野保護組合では今十七日午前十時同署會議室に組合長會を開き引續いて總會を催し庶務會計の報告後柴田署長の訓示終つて

石双乾藪販賣利用組合聯合會設立協議

昨十六日石城産業部會で

産業組合石城郡部會では昨十六日午前十時平町部會樓上乾藪販賣利用組合聯合會設立に關して委員十名同協議の結果大體具體案を決定したのでより先き双藪部から聯合會を希望されてゐるに對し今十七日午後四時五十分平窪部會代表の木田主事、郡警備組合長酒井次氏富岡に向ひ双藪部の代表山田六郎氏に交渉したのである

蘭に就て

民族の推移考察 (10) 支那話二題

筆者は茲に支那に於ける説話を擧る その一 一美人(たがい物語叙事要素としてヒロインは美女に決まつてゐる)一國一城の主上に依り懸想するところとなり、迷麟を得流刑に處せられ

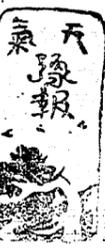
氏を相談の相手に推し所記の計畫を進める模様であるが双葉郡の意向が若し是れ等の出資を厭ふ場合は聯合に遠慮を請ふものゝ如くである

醬油泥の部落積

立集金を着服 石城郡内郷村の小島生れ當時双葉郡刈野村大字寄原居住の吉田庄司(四)等は去る十四日夜八時頃同地吉田孝七方の倉庫に忍び醬油五升を窃取し檢舉取調への結果尙ほ同部落の積立金の集金方を吉田孝七から依頼されたとして金五十圓餘を集金着服してゐたことも判明した

指名手配の賊

秋田縣山本郡八盛村生れ漁夫村上喜之助(五)は茨城縣下を荒し關係地から指名手配中であつたが昨十五日夜石城郡内郷村の邊に居る實母方に立寄つたところを平窪に取押へられた



今晩も明日も北西の風、晴

が突へてゐた。(女)の意地と云ふものを一私に私を以て死を以て世に示す時機が来た、お父さんやお母さんの恩愛のものも育れて来た私は此世から喪失しようとも、新しい宇宙と共に遠く生命を宿す私の誕生としての門出、泪なんて不吉、笑つて前途を祝福してやつて下され、せめてものなぐさみ(一)

